

博士論文

『古事記』における〈古〉の世界

谷
和
樹

目次

序論 『古事記』というテキストをどう捉えるか

注

第一章 氏祖注から見る『古事記』の構造

注

第二章 〈古〉から「今」にあり続ける国造・県主——国造・県主関連記事の分析を通して——

注

第三章 『先代旧事本紀』『国造本紀』における虚構の構築

注

第四章 「みやけ」——『古事記』における制度として——

注

第五章 氏族とはかかわらない『古事記』の大臣おほおみ

注

第六章 天皇に従うものたちが作る〈古〉の世界——百官関連記事を中心として——

注

おわりに

参考文献

凡例

・本文引用に際しては、以下のテキストを用いた。

『古事記』 新編日本古典文学全集『古事記』（山口佳紀・神野志隆光校注・

訳、小学館、一九九七年六月）

『日本書紀』

『日本書紀（一）（五）』（岩波文庫、坂本太郎・家永三郎・井上光貞・大野晋校注、岩波書店、一九九四年九月～一九九五年三月）

『先代旧事本紀』『先代舊事本紀の研究 校本の部』（鎌田純一、吉川弘文館、一九

六〇年三月）

『古事記伝』

『本居宣長全集』第九～一二巻（大野晋編、筑摩書房、一九六八年七月～一九七四年三月）

・『古事記』については、原文と併せて訓読文を挙げ、『日本書紀』『先代旧事本紀』については、原文を掲げ、依拠したテキストに基づき返り点を付した。なお、割注は【】にて示し、引用文中の傍線や四角囲みは私に付した。

（附記）

本論文の一部は、以下の既発表論文、及び学会発表を基にしている。

「みやけ」——『古事記』における制度として——（『國語と國文學』第八四卷第

八号、二〇〇七年八月）

『古事記』における「大臣」——おほおみ墨江中王討伐の物語を通して——（『古事記年報』

第五一号、二〇〇九年一月）

氏祖注から見る『古事記』の構造（平成二六年度上代文学会七月例会口頭発表、於

昭和女子大学、二〇一四年七月一二日）